

香港日本語教育フォーラム

準備号 (2019 年 Vol. 0.1)

発行：香港日本語教育研究会

目次

◆はじめに

P1

◆第 12 回国際日本語教育 及び日本研究シンポジウ ム・参加者、運営者レポ ート

P2

◆図書案内 by 斎藤誠

P6

◆香港日本語教育研究会 イベント情報

P9

◆投稿の募集

- ・ 質問箱
- ・ リレーエッセイ

P10

◆編集後記

P10

はじめに

「香港日本語教育フォーラム」は、香港日本語教育研究会の会員向け会報誌です。研究会からの情報発信だけでなく、会員の皆様同士の交流、研究会に所属する国際交流基金派遣日本語教育アドバイザーへの質問、相談など、様々なコンテンツで構成する予定です。今回は準備号として、12月8, 9日の「第12回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム」参加者レポートを掲載いたします。今後、この「フォーラム」が相互交流の場として、会員の皆様に育てていただけたら望外の喜びです。



第 12 回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム 参加者・運営者レポート

2018年12月8, 9日に「第12回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム」(主催：香港日本語教育研究会、共催：香港理工大学中国語・バイリンガル研究学科)が香港理工大学を会場に行なわれました。テーマを「多言語世界における日本語教育の変遷」と題し、中根育子博士(メルボルン大学)、日野信行教授(大阪大学)による基調講演、各分科会に分かれての口頭発表は参加者数278名を数え、盛況でした。今回、口頭発表をなさった原先生(鹿児島大学)、葉先生(香港理工大学)に参加者レポートを、本シンポジウムの会場準備、運営で中心にご尽力された松本先生(香港理工大学)に現場レポートのご寄稿をお願いいたしました。シンポジウムの様子、舞台裏を感じていただけたら幸いです。

第 12 回国際日本語教育及び日本研究シンポジウムに参加して

原 隆幸（鹿児島大学）

2014 年に開催された第 10 回大会に参加して以来、久しぶりに今回「国際日本語教育及び日本研究シンポジウム」に参加し、発表しました。今回のシンポジウムのテーマは「多言語世界における日本語教育の変遷」です。多言語社会であり、言語教育政策として両文三語政策が導入されている香港で、このようなテーマはまさにふさわしいものでした。テーマだけではなく、開会式の挨拶は日本語と英語で行われ、大会委員長による挨拶は英語で行われましたが、内容が英語と日本語でスクリーンに映し出されるなど、多言語世界に相応しい工夫がなされていたのは印象的でした。

今回は、2 本の基調講演があり、1 つはメルボルン大学の中根育子先生による「多言語世界における自己、他者、世界の理解：日本語を通しての学び」、もう 1 つは大阪大学の日野信行先生による「言語使用者を母語話者の規範から解放する言語教育」です。スケジュールの都合で中根先生の基調講演しか拝聴できなかったのが残念です。中根先生のご発表は日本語でしたが、スライドは日本語と英語も含まれているものでした。ご自身でのフランスの空港での体験談から、オーストラリアでの様々な経験を通してのお話は、とても興味深いものでした。

また、今回も分科会で進行係を依頼されました。いつもと違ったのは 3 本の発表はすべて英語で行われるので、司会も英語を使用することでした。普段は大学で英語を教えており、いくつかの学会では英語で司会をすることもあるので問題はありませんでした。質疑応答は英語だけでなく日本語でも行われ、分科会会場でも多言語世界を感じることができる場となりました。

多言語化する社会では、人々は複数の言語レパートリーを持ち、社会との関わりに応じて、言語を近いわけながら社会参加するようになってきています。同時に複数の文化に対する理解も重要となります。今回は、そのようなことを改めて考えるいい機会になったと思います。



基調講演（中根育子先生）

マーケティング視点から見る香港日本語教育

葉 兆智 (香港理工大学)

今回の第十二回国際日本語教育・日本研究シンポジウムの発表を参加させていただき、大変光栄です。世界中の日本語教育を研究している方に出会いまして、大変勉強になりました。

今度のシンポジウムで、日本語教育に関する研究、例えば作文指導の仕方、会話授業の指導法などを拝見させて頂いており、世界中の日本語教育を研究している方に出会いまして、大変勉強になりました。

私は香港で小さな日本語学校を経営しながら個人授業で日本語講師をしています。今回のシンポジウムにてマーケティング学のサービスマーケティングミックスの概念を用いて、その視点から香港の民間日本語学校を調査し、分析しました。

香港はただ人口が約 744 万人の小さな町ですが、独自の環境や民族性があり、香港における日本語教育は、民間日本語学校による教育が主流となります。それはすべて市場（学生）で決められる商業行為で、授業時間、内容、学生など、各方面は大学の日本語教育と異なります。大学の日本語教育と別のものだと言えるのではないかと思います。

この調査で、香港の民間日本語教育における研究は、まだ余地があると思います。特に最近経済、政治などの原因で、香港の日本語教育のビジネス環境の変化を実感しています。これからも調査し、日本語教育に貢献をしたいと思います。



左より 李楚成大会委員長 (香港理工大学中国語・バイリンガル研究学科長)
朱鴻林教授 (香港理工大学人文学部長)
廣田司首席領事 (在香港日本国総領事館)
マギー梁安玉大会副委員長 (香港日本語教育研究会会長)

第十二回国際日本語教育・日本研究シンポジウムを振り返る

—多言語世界における言語教育研究の波紋—

松本真澄 (香港理工大学)

2016 年の第十一回国際日本語教育・日本研究シンポジウムが終了して間もなく、香港日本語教育研究会は、2018 年第十二回シンポジウムに向けて動き出していた。梁安玉会長が当香港理工大学、チャイニーズ&バイリンガル研究学科の李学科長を訪問し「次回は貴大学で開催を」との提案に、私は逃げ回っていた子供が捕まえられたような気持ちになったのを覚えている。というのもこのシンポジウムは、2 年ごとに各大学が持ち回りで担当して開催しているが、香港理工大学は 1999 年に開催して、その後 19 年間も携わることができなかったのである。今回は李学科長がリーダーシップを取り、Web 担当者や Event, IT 担当者らを巻き込んで 1 年以上前から、香港日本語教育研究会と定期的に打ち合わせを行ってきた。また同時に香港日本語教育研究会の月例理事会でも、進捗状況を共有してきた。

2017 年 4 月 7 日の 2 回目の打ち合わせでは、兩文三語の香港が多言語社会であることはもとより、インターネットやスマートフォン等により多言語世界が広がった今、日本語教育や他言語教育はどのように対応・変化しているのかに焦点をあて「Changing nature of Japanese language teaching and learning in a multilingual world 多言語世界における日本語教育の変遷」がテーマに決まった。早速、基調講演者として日本語教育から中根育子博士 (メルボルン大学)、そして英語教育からは日野信行教授 (大阪大学) にご講演をお願いし、ご快諾頂いた。シンポジウムには、ご来賓として在香港日本国総領事館 廣田司首席領事、国際交流基金北京日本文化センターから金子 聖仁氏、香港理工大学人文学部学部長朱鴻林教授らにご出席頂き、総勢 278 名の大きな大会となった。発表内容も多岐にわたり、在日モスレム社会の日本語事情やタイの中級日本語の現状報告、アラビア語と日本語の比較研究等、まさにテーマに掲げた多言語世界の研究がそこに集っていた。



司会を務めたスカーレットさん

今回の第 12 回シンポジウムでは、新たに取り入れたことが 5 つある。一つ目はオンラインによる支払いシステムだ。それは功を奏し、当日の混雑や煩雑な作業を解消し、登録作業が速やかに進んだ。二つ目は当バイリンガル研究学科 3 年生の ZHAO WAI SZE, スカーレットさんによる日・英両語での開会式司会だ。これまでのシンポジウムは研究者や先生方のためだったが、そこに日本語を学ぶ学生も加わったのだ。三つ目は、フォーラムで参加者からの質問に答える形をとったことでしょう。大会 2 日目の午後 1 時に質問票箱を回収し、5 時のフォーラムまでに英

語と日本語で回答をパワーポイントで作成したのである。フォーラムでは、参加者だけではなく学生ヘルパーからの意見が聞けたことは、いままでにないシンポジウムの形であったと言える。4つ目は、昼食の選択である。日本の弁当3種と中華弁当3種、そしてベジタリアン弁当と、参加登録時に選んでもらった。日本からの参加者には中華弁当が人気だったが、香港内や海外からの参加者には日本の弁当が喜ばれた。最後の5つ目は学生ヘルパーのトレーニングである。香港日本語教育研究会が準備した仕事のフォローチャートに沿って、場面場面での受け答えをつけ練習した。

学生たちは真面目にしっかりと、それを覚えてきてくれた。加えて日本的な「おもてなし」について話し合い、学生たちも「指さすだけではなく、そこまで案内する」ことを心がけて実行していた。会場から遠く離れた香港理工大学正門前バス停にも学生ヘルパーが立っていて、「おはようございます」と明るく挨拶してくれてよかったとの好評が、学生ヘルパーの成長を物語っている。今回のシンポジウムは、研究者・教育者・学習者のみならず学生ヘルパーたちにとっても、成長の2日間だったことは確かであろう。

第十二回シンポジウムの多言語世界における言語教育研究の良き波紋が、研究者・先生・学習者、そして学生ヘルパーたちをも包み込みながら、香港から世界へ広がっていくことを願ってやまない。



参加登録に忙しい学生ヘルパー

日本語教育 図書教材案内 by 斎藤 誠

（国際交流基金派遣日本語教育専門家）



「図書教材案内」は、今回から「香港日本語教育フォーラム」にお引越して、リニューアルいたしました。これからも香港・マカオの日本語教育に役立ちそうな情報を掲載して参ります。今回は、2018 年後半に出版された日本語教育書籍・教材からピックアップしてご紹介します。（各項目の QR コードは出版元の紹介ページへのリンクです）

1. 考える・理解する・伝える力が身につく

日本語ロジカルトレーニング 初級

著者：西隈俊哉

発行：アルク 2018 年

<https://ec.alc.co.jp/book/7018038/>



言いたいことが相手に伝わる！

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語ロジカルトレーニング 初級』は、日本語学習者が「論理的思考力」を身につけることを目指したワークブックです。本書では、論理的思考力を「発想力」「読解力」「表現力」の3要素に分けた練習問題で、それぞれ様々なトレーニングを行います。練習問題を解くうちに論理的に考える習慣が付き、初級レベルの日本語でも自分の意見や考えを相手に正しく伝えることができるようになります。（出版元 HP より）※同書「中級」も発売されています。

2. もう学校も先生もいない!?

SNS で外国語をマスターする《冒険家メソッド》

著者：村上吉文

発行：ココ出版 2018 年



学校や教師が必要ない時代に突入!?

外国語を独学で学ぶ人の数は、学校で学ぶ人の数よりもはるかに多いと言われています。いま、SNS やインターネットの発展がそれに拍車をかけています。本書では、人気ブログ「むらログ」の村上吉文先生が、SNS などインターネットを活用した外国語独学法「冒険者メソッド」を伝授します。独学で外国語をマスターしたい人はもちろん、ネットを授業に活用したい語学教師も必読の 1 冊です。(出版元 HP より)

3. NIJ テーマで学ぶ中級日本語

著者：西口光一

発行：くろしお出版 2018 年

http://www.9640.jp/book_view/?775



基礎日本語教科書『NEJ』に続く、初中級・中級総合日本語教科書。CEFR を意識し厳選されたトピックについて、学習者同士で話し合う、エッセイを書くなど、テーマを巡る豊かな自己表現活動を通して、無理なく楽しく中級日本語へ。ユニット対応の漢字・漢字語が学べる別冊「漢字と言葉」付き。音声は WEB ダウンロード。(出版元 HP より)

4. AL 型授業が活性化する 参加型アクティビティ入門

著者：渡部淳+獲得型教育研究会編著

発行：学事出版 2018 年

<http://www.gakuji.co.jp/book/978-4-7619-2498-0.html>



ゲーム、ディスカッション/ディベート、ドラマワークなど、学習者が主体となって取り組む諸活動を意味するアクティビティを効果的に使いこなし、豊かな学びの経験を味わえるようにしよう! アクティビティを活用した学びの世界が具体的にイメージできるよう解説。小学校から大学まで、学年・教科を問わず使える必携書。(出版元 HP より)

5. マルチメディア日本語基本文法ワークブック

著者：筒井通雄 [監修・著] 榊原芳美、渡会尚子、岡まゆみ [著]

発行：ジャパンタイムズ 2018 年

<https://bookclub.japantimes.co.jp/jp/book/b371549.html>



日本語学習書のロングセラー『日本語基本文法辞典』の完全準拠した文法ワークブック。

付属のパワーポイント教材を使えば、クラスでも個人でも効率的な練習が可能。

言語学習には文法理解が不可欠ですが、適切なコミュニケーションができるようになるためには、文法知識をもとに正しい文を作り、それを現実起こる状況や自然な文脈の中で使う練習が欠かせません。本書は初級レベルの日本語文法を対象に、教室でも個人学習でも、このような練習が効率的にできることをめざした教材です。（出版元 HP より）

6. 中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語

—就活から入社まで—

著者：村野節子・山辺真理子・向山陽子

発行：スリーエーネットワーク 2018 年

<http://www.3anet.co.jp/ja/6429/>



日本での就活や新入社員としての会社生活に有用な基礎日本語力を養成

「上級の前段階から、ビジネス場面の指導を行う教材が欲しい」という多数の要望を受け制作された一冊です。前半は学生編として、就活準備から面接の場面、後半は新入社員編として、入社直後から数ヶ月の場面を取り上げ、ロールプレイやディスカッションなどのタスクを通して、日本語の運用能力を養成します。同時に、ビジネス場面でよく使用される文型・表現や、就活を含む日本の企業文化についての知識も学べるようになっています。（出版元 HP より）

7. 現場に役立つ日本語教育研究 6 語から始まる教材作り

著者：岩田一成 [編]

発行：くろしお出版 2018 年

<http://9640.jp/nihongo/ja/detail/?781>



コミュニケーション場面において、単語が一つ言えることで意図が相手に伝わるなんてことはよくあるのではないかと考えている。本書は、「語彙を中心にして教材を作ってみたらどうなるか」という共通課題で取り組んだ論文集である。本書で伝えたいメッセージは、「語彙は

文法導入のおまけではない」ということ。(出版元 HP より)

「図書教材案内」のバックナンバーは香港日本語教育研究会のウェブサイトでご覧いただけます。
<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/library.html>

**香港日本語教育研究会カレンダー
(2019 年上半期)**

※2019 年 3 月 5 日現在。

都合により変更の可能性があります。最新の情報は以下の URL にてご確認ください。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/activities.html>

日時	名称・会場・詳細等
3/9 (土) 14:00-17:30 [講演]	香港日本語教育セミナー 会場：香港城市大学
3/10 (日) 13:00-17:30 [ワークショップ]	https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/seminar/2019/Sakura2019.html
4/13 (土) 14:00-16:00	月例会「『やさしい日本語』を作ってみよう」 会場：香港日本語教育研究会 (事前申込不要)
	日本語教育ワークショップ「『まるごと』で教える (中級編)」
4/17 (水) 14:00-17:00	会場：第一日本語学校 (太子校)
4/25 (木) 14:00-17:00	第一日本語学校 (香港校)
5/18 (土) 14:30-17:30	香港日本語教育研究会 会議室 [ご登録フォーム] https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/form1904.html
	第 15 回香港小中高生日本語スピーチコンテスト
5/5 (日) 10:00-17:30	会場：香港城市大学 https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/speech/2019/details.html
8/31 (土) 必着	『日本学刊』第 23 号 (2020 年 6 月刊行予定) 投稿締め切り

投稿募集！①

アドバイザー質問箱

日々の授業、教材などのお悩み、相談など、日本語教育専門家に聞いてみたいことを募集します。小さなお悩みも大歓迎です。あて先： sojlehongkong@gmail.com

投稿募集！②

エッセイ：私と日本語教師と

「日本語教師になったきっかけは？」「今どんな人に教えていますか？」リレー方式でエッセイを繋げたいと思います。最初に伝えたい人を募集中！あて先： sojlehongkong@gmail.com

編集後記

今号では、何より第 12 回シンポジウムのレポートをご執筆いただいた皆様に篤くお礼申し上げます。この「準備号」への、皆様からのフィードバックを頂き、今後改善しながら発行していければと考えております。皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。（斎藤）

香港日本語教育フォーラム

準備号（2019 年 Vol. 0.1）

発行：香港日本語教育研究会 香港日本語教育フォーラム編集委員会

編集委員：斎藤誠（編集委員長） 梁安玉 青山玲二郎 陳鴻輝

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/index.html>
